

## お知らせコーナー

【まつやまNPOサポートセンターの講座・イベント情報】

日 時・会 場	講 座・イベント名	内 容
11/17(土) 13時半～17時 コムズ3F会議室3	NPOの情報管理活用講座 &情報交流会 【ゲスト】 認定NPO法人イーパーツ 事務局長 会田和弘 氏	データをすっきり整理！団体運営のヒント満載です。 寄付者や会員情報など集まった個人情報をファイリングするだけになっていませんか？スタッフ同士での情報共有が難しいなんてことは？情報管理のスペシャリストを講師に迎え、あなたの団体をスッキリ・スムーズに運営できるヒントをお伝えします。情報交流会（別途参加費500円必要）も同時開催いたします。 【講座参加費】無料 【定員】20名（先着順）

松山市生涯現役交流集会

市民活動交流集会 同時開催

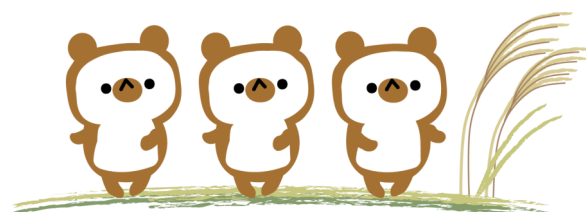
## 出展者大募集中

平成31年2月23日(土)、松山市生涯現役・市民活動交流集会『生涯現役！～楽しもう 私らしい人生～』を開催いたします。昨年度同様、松山市男女共同参画推進センター全館を会場とし、来場者300名を超える(昨年度実績)、年度末を飾る一大イベントです。

健康、仕事、生きがいづくり、生活などの様々なジャンルの団体や企業、地域の皆様がブース出展やステージイベントを行います。どうぞご期待ください！

このイベントを開催するにあたって、団体の活動をPRできるブースへの出展者を大募集中です。また、例年通り、NPOプレゼン大会「NPO of the year 2019」も開催いたします。プレゼンで団体の活動をアピールしたい方も、ふるってお申込みください。

詳細についてのお問い合わせは、まつやまNPOサポートセンターまで。



お問い合わせはまつやまNPOサポートセンターまで

〒790-0003松山市三番町6丁目4-20コムズ内

Tel: 089-943-5790

Fax: 089-943-5796

Eメール: pico@npo.coms.or.jp



まつやまNPO

検索

まつやまNPOサポートセンターの情報誌

# サポセンだより



2～5P 特集 NPOとして災害に備える～NPO向け事業継続計画～

NPO向け事業継続計画のつくりかたをご紹介します。

6 P レポート 平成30年度 市民活動推進事業採択団体の活動報告

採択団体の事業について、イベントなど活動状況をご報告

7 P レポート まちづくり協議会のイベント&まちづくり講座開催報告

まちづくり協議会関連イベント、7月～9月の「まちづくり講座」の様子をご報告。

8 P お知らせコーナー



【発行】

まつやまNPO  
サポートセンター

## 特集

### NPOとして災害に備える～NPO向け事業継続計画～

1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災のような大規模地震。今年発生した平成30年7月豪雨のような台風、集中豪雨などによる大規模水害。近年の日本では大きな災害が繰り返し起きています。

また、今後30年以内に、南海トラフ地震は70%～80%の確率で、松山市が震度6以上の地震に見舞われる可能性は、46%の確率で発生する(注1)とも言われています。

阪神・淡路大震災がNPO法成立のきっかけとなる背景がある中で、来るべき大災害に対して、NPO法人やNPOは、どう備えるべきなのでしょう。

(注1) 出典: 全国地震動予測地図2018年版(文部科学省研究開発局地震・防災研究課)

#### 「NPOとして災害に備える」とは？

##### ● 災害時にNPOに求められることは？

わたしたちNPOにとっても、近年の災害の多さを目の当たりにするたびに、災害対策や災害計画を作成しておくことは、大きな意味を持っています。

なぜなら、まだまだNPO＝ボランティアグループのイメージが根強く、市民の方などに災害時に協力してほしいと頼まれる可能性はとても高いからです。今年愛媛県内の被害があった、平成30年7月豪雨災害の際にも、ボランティア協力のお問い合わせがあった団体もいくつかあったようです。

また、関係団体や県外の団体などから個別協力の申し出や復興支援の調整などをお願いされることもあります。

実際の災害で、自団体のスタッフや関係者、事務所などが被災した場合は、NPOとして動くことが非常に困難になります。それでも、災害の規模に応じた、活動をする必要がでてくる可能性があります。もちろん、それぞれの団体には限度があるので、「できる範囲で行動する」、ということにはなります。しかし、「いや、災害時には何もしません」という団体は、少ないでしょう。





突然、災害が起こって慌てる前に、わたしたちは、緊急時や復旧・復興時にNPOとしてどのように関わり、行動をしていくのかを決めておく必要があります。



### まちづくり協議会のイベント＆まちづくり講座開催報告

まちづくり協議会に関連した各地域のイベント会場などを訪問し、活動状況を見学させていただいています。その活動状況の一部をご紹介します。また、7月～9月にかけて開催しました「まちづくり講座」の様子もご報告いたします。

#### ●まちづくり協議会イベント報告

<p>清水地区まちづくり協議会 -まち協 夏祭り-</p> <p>清水地区の厄除延命地藏尊前の通りで、どじょう施餓鬼を復活させ、地域のお祭りとして開催しています。夏祭りの定番、かき氷や綿菓子など子どもから大人まで楽しめるイベントでした。愛媛大学学生や市役所の方などがお手伝いに来ていました。</p> 	<p>三津浜地区まちづくり協議会 -三津浜地区盆踊り大会-</p> <p>松山市役所三津浜支所・地域交流センター駐車場に櫓を設置し、多くの踊り手による活気ある盆踊り大会が開催されました。4年前から開催され、年々来られる人が増えていき、地域のコミュニティとして、重要な役割を持っているイベントです。</p> 
<p>余土地区まちづくり協議会 -余土こどもフェスティバル-</p> <p>余土公民館と体育館に様々なブースが準備され、たくさんの子供たちで賑わっていました。人形劇、けん玉大会、紙ヒコーキ飛ばし大会など、地域の方が工夫され、大人と子どもみんなが楽しめる、あたたかみのある手作りのイベントでした。</p> 	<p>垣生地区まちづくり協議会 -垣生の夏祭り-</p> <p>特設した櫓を中心に太鼓演奏など、子ども達が多くにぎやかな祭りでした。配布されているうちわには、まちづくり協議会のキャッチフレーズが掲載されていました。こういったアピールがこれからの地域の姿として地域に浸透していくのではと感じました。</p> 

#### ●まちづくり講座開催報告



<p>地域の犬や猫について学ぼう！ ～地域猫活動とペット防災～</p> <p>認定NPO法人 えひめイヌ・ネコの会代表の高岸ちはりさんを迎え、西日本豪雨で被害を受けた大洲市へ行かれた時のお話や「猫たちのためだけでなく、住民の方の地域環境のためにしている活動」として、人と野良猫たちが共存していく形を講演していただきました。</p>	<p>地域にいる子どもについて知ろう！ ～子どもの現状と支援～</p> <p>まつやま子ども食堂代表の野中さんを迎え、子どもたちの現状や「子ども食堂」の取り組みなどお話いただきました。今の日本では、子どもを育てる親が意識して外とつながらないと家庭も子どもも閉鎖的になりやすいので、意識していかないといけないなと感じました。</p>
---	---





## 平成30年度 市民活動推進事業採択団体の活動報告

今年度、松山市市民活動推進補助事業(立ち上がり支援、成熟促進支援、次世代育成支援)採択団体の事業について、イベントなど活動状況を見学させていただきました。その活動状況の一部をご紹介します。

<p><b>まつやま防火防災ものづくり隊</b> -真砂町防災訓練-</p> <p>松山工業高校で消防、学校関係、町内の皆様に向けたイベントが開催されました。地震体験、レスキューロボットの実演などで、防災の知識と日頃の備えの大事さについてのアピールを行いました。</p> 	<p><b>あにまる365</b> -人と動物の架け橋 譲渡会-</p> <p>保健所や動物愛護支援センターに収容された犬、猫の殺処分を減らすため、保護された犬、猫の譲渡会が行われました。松山市駅前坊ちゃん広場での開催では、買い物に訪れた方も足を止め、興味深そうに見学されていました。</p> 
---	---

<p><b>NPO Communication Network</b> -キッズ国際イングリッシュDAY-</p> <p>日常に英語を取り入れる機会として国際交流の場を提供し、国際理解と実践的な英語学習を促進する事業です。小学生と先生役の大人がグループを組み、教室内の会話はすべて英語で行うというカリキュラムを実施していました。</p> 	<p><b>特定非営利活動法人Radiant</b> -夏休みこどもお仕事体験学習(愛媛CATV)-</p> <p>夏休み期間を利用して、子どもたちが様々な職場を訪問し、実際の仕事を体験する事業です。今回は愛媛CATVにて、普段見ることができない撮影現場やアナウンス業務など、テレビ局の仕事について体験、見学を行いました。</p> 
--	--

<p><b>アトリエmaman</b> -子どものために写真をのこすフォト講座-</p> <p>写真撮影や保存方法の啓発を通して、家族の思い出の記録や交流を促進できる人材の育成をする事業です。今回は「特別な1枚を撮影しよう!」というテーマで、特設フォトブースにて子どもを中心に“特別な”写真を撮影しました。</p> 	<p><b>マネキネマ</b> -まつやまこども映画祭</p> <p>良い映画を普及し、地方文化の向上を目指す事業です。今回は「子ども」をテーマにした映画を上映し、上映後は作品テーマに合った講師と「子どもの権利」を意識しながら、参加者を交えた感想交流を行いました。</p> 
---	---

### ● 事業継続計画(BCP)とNPO向け事業継続計画とは？

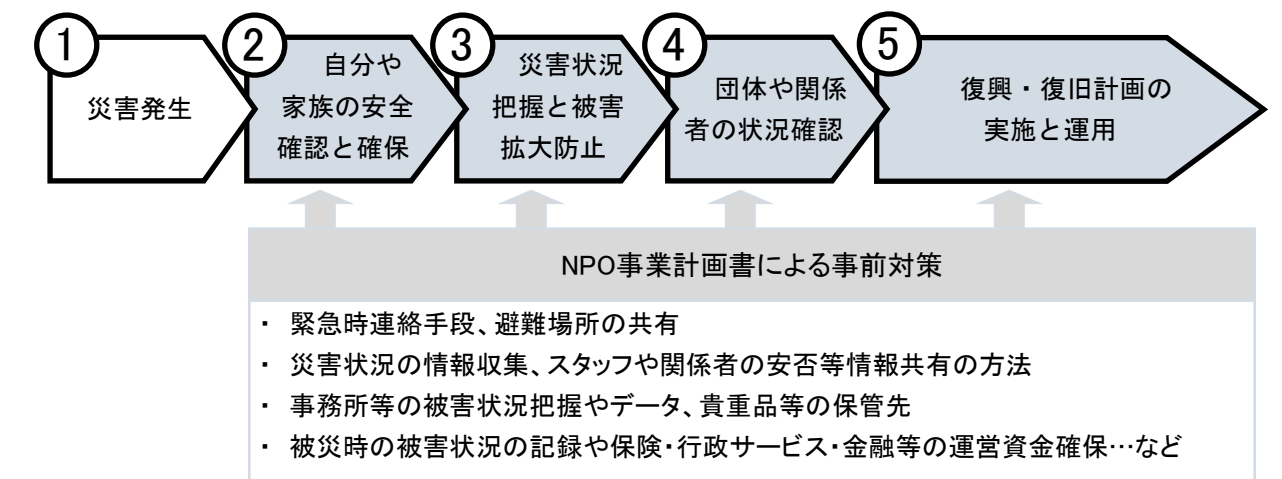
その緊急時にどう行動するかを決めておく方法のひとつに「事業継続計画(BCP)」があります。

事業継続計画(BCP)とは、一般的には、企業向けに災害時、災害後に事業を継続するために作成する計画のことです。BCPを作成しておく、全く計画していない場合より、復興・復旧の時間が大幅に短縮されるといわれています。

そこで、内閣府や中小企業庁などの国の機関では、自治体、業界団体、NPOについてもBCPの整備を行うよう、推進されています。

NPOは、自分たちを支え、利用者・関係者を支え、災害を乗り越えて、活動を継続していくためにも、しっかりと『NPO版事業継続計画(NBCP※1)』を作成しておきましょう。(※1造語です。)

#### 【NBCPがあると役立つ場面(災害発生後の時系列)】



### 実際にNBCPをつくるためには、どんなことが必要？

災害時、人・モノ・資金・情報が足りなくなるという状況の中で、短時間で行動・対応をするためには、事前に何が起こる可能性があるのかを考えて、その時に何をするのかを計画として決めます。そして、実際にその計画が実行できるように訓練を行うなど備えておかなくてはなりません。そのためには、今回は、「NBCPをつくるためのポイント」、「NBCPをつくる手順」、「NBCPの活用方法」、「NBCPの参考資料や相談先」についてご案内します。

#### ● NBCPをつくるためのポイント

NBCPをつくるときには、以下の3点のような要素を意識して、計画づくりを進めていきます。

#### 【意識する三要素】

- ① 何が起きたのか(被害状況や災害による様々な影響)
- ② 何が足りないのか(人、モノ、資金、情報)
- ③ 何をいつまでにするのか(計画の進捗の基準)



● NBCPをつくる手順 どういう順番で計画する？

計画づくりでは、次の①～⑥のような手順で進めていきます。

計画の主な作成は、団体の代表や役員が担当することになります。しかし、限られたメンバーで計画を決めてしまうと、偏った内容になってしまうことも考えられます。

そこで、スタッフや会員、関係者など団体にかかわりのある人の計画に対する意見を聞くことをおすすめします。個別のニーズや団体に求められていることを把握し、微調整したり、変更ができるような余裕を持たせることで、よりよい計画に近づけることができます。



【計画作成手順】

① 基本方針をきめる	： スタッフや利用者及びその家族の身体の安全確保と団体活動の維持に必要なものを守るなど当たり前と思われることでも明文化しておきます。
② 優先事業の検討をする	： 緊急時では、活用できる人材、設備、資金が限られます。どの事業を優先するか、災害支援事業を行うかなどを検討しておきます。
③ 被害状況の想定をする	： 復旧にかかる時間を想定します。この目標時間を目安に、復旧準備をすすめます。
④ 事前対策を実施する	： 関係者などと協議しておきます。主要な事業やその復旧時間などを伝えておき、お互いに協力しあえることや情報連絡方法について決めておきます。
⑤ 緊急時の体制の整備をする	： 代替案を用意・検討しておきます。データのバックアップ方法についても検討しておくのも大切です。
⑥ メインスタッフ(役員)と共有する	： 緊急時にどう行動するのか、メインスタッフ(役員)にはどう行動してほしいかを共有しておきます。また、訓練方法なども打ち合わせておきます。

● NBCPの活用 計画を活用し、見直す

時間をかけて、せっかく計画を作っても、実際の災害時に活用されなければ意味がありません。

また、スタッフや関係者が計画作成時と入れ替わることも考えられます。

そのためには、メインスタッフはもちろん、利用者や関係者とも各自の取組状況、役割分担などを定期的に確認し、計画を見直すようにしましょう。

【計画の活用について】

① スタッフ、利用者、関係者などとの情報共有をして、訓練をする	： 団体と関わる頻度などに応じて、NBCPの内容について勉強会を開いたり、掲示したりなどして共有します。また、必要な情報にすぐアクセスできるように、年1回以上は訓練の機会を作りましょう。
② 計画を見直す	： 定期的に計画に関係する事柄(スタッフ、利用者、関係者の連絡先や事業計画の変更など)について状況確認や気になることを話し合う時間を取ります。そして、必要に応じて、計画を練り直しましょう。

● NBCPをつくるときの参考資料・相談先

2018年9月現在、NBCP作成用の参考資料はありませんが、企業向けのBCP作成資料(中小企業BCP策定運用指針)が中小企業庁のホームページで公開されています。事業継続計画の基本的な考え方や手順については、同じですので、ぜひご活用いただければと思います。また、NBCPについて具体的な相談は、まつやまNPOサポートセンターまでご連絡いただければ、計画の作成をお手伝いいたします。

【参考資料】

○中小企業BCP策定運用指針(中小企業庁)

<http://www.chusho.meti.go.jp/bcp/index.html>

【相談先】

○まつやまNPOサポートセンター

Tel:089-943-5790 Eメール:pico@npo.coms.or.jp



● 今回のまとめ

- ① 個人と同様にNPOも普段から災害に対して備えておくことが大切。
- ② NPO向け事業継続計画をつくるときは、ポイントを押さえて、スタッフや関係者の意見を取り入れながら、作りましょう。